




































名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考	
運搬用具												
神野善治												
	日常的に山仕事などの小道具を入れて背負って運ぶ袋。それぞれの地域にある丈夫な草・蔓・樹皮などで編んだものが各種ある。	アンプク ロ、アミフ ク	テジツフ ロ、ナメコ フコ		ショイブク ロ	タス、ダス、 ナフ、テシ ゴ、ワラテ シ、タス、 テシゴ	タス、フコ、 テシゴ、ヒク	オーダ、カ ガイ、カン サー	×	【背負い袋】おててご・がたまの・つかり・つきやり・なわてご・なわてんご・ふくらせなごで 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一） 【背負袋】ねごさ・ねごた 【狩人の用具などを入れて負いく袋】しいごぶくろ以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		
	籠の一種。荷を容れる機能とともに、背負って運搬する機能を持たせて、背負い紐を付けたり、背中にあたるクッションを供えたものがあり、大量の荷を容れられるように上方が大きく開いたものなど中に入れる荷の種類に応じて、背負い運搬に特化したものが様々ある。ショイカゴ、ニナイカゴ、ソラクチなど。	ショイカ ゴ、ソラク チ、タガ ラ		ハチホンバ サミ	ショイカ ゴ、セカ ゴ、ダルマ カゴ	メカゴ		カリテゴ、 テル、シタ ミ、ダッテ ゴ、ツツラ テゴ、テル	ティール	【背負籠】いしご・えぼ・おいご・けご・すり・とりのす・ばんによ・ふしんかご・またか・たす 【漁業用の背負籠】やっさかご 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		
	荷を背負って運ぶための運搬具で、荷を固定する棒と縄、両肩で背負うための縄、背中のクッションなどが一つの道具としてまとまっているのが特徴。呼称は多様であるが、民具研究の初期に関東地方の「せおいばしご（背負梯子）」が目ざされ、この語が研究者の間で用いられるようになった。しかし、その細長い梯子形は関東の平野部特有の形態で、大きさや形態のバランスも各地で異なり、典型的なものではなかった。ここでは背負子を項目名とした。中世の絵巻物の時代にはまだ登場しない。なお、木の股などの「爪」あるいは「ツノ」が付いたものが西日本を中心に分布するが、朝鮮半島のチゲとの関係が指摘されている。 *前編（6巻）のよみ「しよいこ」より変更。	ヤセウマ、 ショイバン ゴ			ショイワク ショイコ、 ショイタ、 ショイバン、 ゴ、セコ、 ヒ、セタ、 セーコ、ヤ イナワ セウマ、ヤ ショウマ	ハリカサ、 セタ	カリ、カリ コ、オンナ カリ、フン コカリ、シ マゲ	×	【背負子】いんが・うえ・うま・うまはしご・おい・おいかぎ・おいこ・おいだい・おいのこ・かすきばしご・からえご・かりやちげ・かるい・かれ・かれの・きおいて・きかるい・しげー・しながち・せいた・せーだいい・せーで・せおい・せた・せだい・せった・せたら・せなご・せなご・せなごーじ・せなごち・だつ・ちげ・ちげーがりや・といきん・においばしご・にこ・にだいい・につごー・はしご・ひっちゃんい・へながち・やしうま・やしえつま・やしえろま・やしつま・やしうんま・やせんばしご・やへんま・わく・わこ 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一） 【背負梯子】おいこ・かり・かるい・かるこ・きおいこ・しよかた・せいた・ひつちやい・やせつま・しよいこ 【背負って物を運搬する道具】えー・おいね・おいだい・おいのこ・かんがり・じがい・せたら・しよいこ・にかわ・れんじやく 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）			
	主に飼料・肥料・燃料などにする枯葉や刈草など比較的軽くてカサのあるものを背負って運ぶための比較的大型の背負籠で、目が粗く編まれ、背負い紐が付く。コノハカゴなど。				ショイカゴ		コノハカ ゴ、ヤマカ ゴ	クサキテ ゴ	×	【草などを入れる籠】かちご・かかご 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		
	堆肥を運ぶのに特化した口の広い籠で、竹製品もあるが、蔓類で粗く編まれたものに特徴がある。肥負子、背負い畚、ソラクチ、タガラなどの呼称がある。	ソラク チ、ソラク チ、カゴ	コエショイ カゴ					フコ、ウブ ンオーダ、 トラ		【背負い畚】いかき 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一） 【馬糞をいれて背負う具】ちかり 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		
	主に稲藁で葎編みにした円筒形の運搬容器。担ぎ縄を肩に直接かけたり、天秤棒にかけて用いる。農作物等の運搬に使われる。				カツギダ ワラ		フコ、テゴ、 イシコ	コエフコ、 コエド、 トラ	ターラ グ、 ラ、 トラ			
	枝がY字に分かれた2本の又木の先端を結びつけ、途中に短い支え棒を縛って作った運搬具。又の部分に荷を乗せ、短い棒の部分に肩を入れて、2本の支柱を前後にして両手で持って担ぐ。比較的小さくて重い荷を、狭い道で運ぶのに適している。九州・四国・紀州の山間部にわずかに確認されているほか、中国雲南省南部などでも用いられている。						オイネ、キ シュマタ	カタゲマ タ	×			
	重いものや堅いもの、濡れたものなど背負うときに、予め背中に当てておき、その上から荷を縛りつけてクッションとしたもの。独立した道具として用いられるが、背負子などにその機能を付け加えたものもある。	セナカア テ、バンド リ、ネコミ ノ		セナカミ ノ	ジュロー タ	セナカミ ノ、セナ テ、キン ゴ、タマ コ、タマ コ、ニ タ、バ ツコウミ ノ	セナカア テ、キン ゴ、タマ コ	シカタ、ニ スリ	×	【背中当】きごも・けら・ごーみし・ごき・せたか・せなかあて・せなご・つんぶり・ぼんとり・しゆーろーた・せなかもみ・ねごがけ 【背当】せなご・さるつこ・ふなぼし 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		
	荷をまとめて背負うための縄。肩に当たる部分だけを幅広く編んだり、丈夫で使いやすくするための工夫が込められている。背中への負担を防ぐための背中当てとともに用いることがしばしば見られた。	ニナワ	ニナワ、タ ナワ	ニナワ ナワ		クビカゲ、 クビナワ、 クビナワ、 クビナワ	オイナワ、 オイネナ ワ、ショイ クミナワ	カリノウ、 カリノ、テ ノ、 ノ	カサギナ ノ		【荷を背負うための縄】おいそ・おいなわ・かすな・かちな・かちなわ・かちなわ・かちなな・かちななわ・かちなわ・かりな・かりな・かれの・かれのー・くびなわ・さんびやく・せーなわ・たなわ・にな・ぼーなわ・まるけずな・まるけなわ 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一）	
	頭当て。頭上運搬の場合、頭上の荷物の安定をよくしたり頭への衝撃を防いだりするために、布・藁などを巻いて作った、小さい輪の形をしたもの。						ワ	カフシ、カ ンメフシ	ガンシナ、 カフシリ、 ツケ	ワ・ワツパ、ワテ（南伊豆） 以上、神野善治		
	背負子で荷を運ぶときなどに手に持つ短い杖で、荷を下ろさずに休憩できるように、腰をやや下ろすと杖の先端に当たって、荷が支えられるように先端を又にしたり、やや平らに作られている。	ニスズイ、 ニスエ				ニスエ	イキツエ、 ニスエ	ツエ、マタ ツエ		【上部が股になった杖※休憩するときなどに荷を下ろすに支える。】こせぼー・きんま・にかけ・にかけくしき・にかけぼー・にしえん・にしえんかぶ・にすよ・にんずいぼー・にんぜん・にんぜんぼー・にんぼー・ねずいぼ・ねずえ・ねずんぼー・ねんじよ・ねんじよー・ねんじよーぼー 以上、『標準語引き方言辞典』（佐藤亮一） 【息杖・力杖】よちよー 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）		











手工
運搬

※備考欄にはあなたの地域の呼称を記入してください

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 てんびんぼう 天秤棒	両端に荷物を吊り下げ、棒の中央を肩に担いで運ぶ運搬用の棒。肩に当たる部分が平たく削られており、歩くときに棒がたわむことで重い荷物を楽に運べるように工夫が加えられている。両端が尖った尖り棒も天秤棒の仲間であるが、棒の両端または片側を荷に直接突き押しして用いる。また両端に縄や鎖を吊り下げ、その先端に鉤をつけて荷（炭俵などの荷や水桶などの容器類など）を掛けて運ぶようにした天秤棒もある。天秤棒は肩に担ぐものが典型であるが、中央を頭上に乗せて運ぶ方法がかつて見られた。	テンピン ウ	カタネ ボウ		カウギン ボウ カウツ モッコ ボウ	ザルボウ モッコ	ボウ、テン ピンボウ	イネサシ ボウ		【天秤棒】 あふ・あいく・あいく・いな いだし・いないぼ・いによーこ いにやぼ・いによかき・いによぼ いねぼ・いによん・いねがき・いね ざし・いねざし・いねぼ・えねぼ・お く・おーこ・おーこー・おーこのぼ おく・おこ・おこんぼ・おんこ・かき ぼー・かしねぼー・かしぼー・かすきぼ かすきぼー・かたぎぼー・かたげぼ かたねぼー・かたねぼー・かちぎぼー・か ちんぼー・かつぎぼー・かつねぼー・かつ ねぼー・かつねんぼー・かつねんぼー・か んずきぼー・かんずんぼー・さし・さず ぎるぼー・しないぼー・しないぼー・ずつ と野ぼー・田子ぼー・田にぼー・たんぼ たんぼー・たひおこ・たひおく・たひよ く・たひおこ・たひよこ・たんびよこ たんびよこ・たんびよこ・てこ・とぎ りぼー・とくしゃく・とくしゃくぼー とんざりぼー・なえざし・にない・に ないぼー・にないぼー・にない・にない おこ・にないぼー・にないぼー・になき になぎんぼー・になつきぼー・にらゆぼ はかり・はねぼー・ぼー・ぼーこ・ぼく と・ぼくとー・ぼこ・ぼて・めこぼー めこんざす・もつこぼー・もつこぼー・も つたぼー・やまおこ・やまおこ・やま こ・やまんこ・やんもく・やんもこ・ろ くしゃく・ろくしゃくぼー 以上、〔標準 語引き方言辞典〕（佐藤亮一） 【天秤棒】 いないだし・いないぼー・いね ざし・おこ・かすきぼー・かたぎぼー かたげぼー・かたねぼー・かつぎぼー かつねんぼー・かんじーぼー・ぎるぼー たこのぼー・てんびんぼーこ・なえざし にない・にないぼー・ぼくとー・もつこ ぼー・ろくしゃく・ろくしゃくぼー・や まこ 以上、〔標準語引分類方言辞典〕 （東條操編）	
 とがりぼう 尖り棒	棒の両端または片端が尖っていて、荷に直接突き押ししてから、肩にかけて運ぶ運搬具。トンガリボウ・ツキンボウ・サンボウなどの名がある。				トンガリボウ ツキト ーシ ツッ トーン トンガリ カツギボ	トガリボ ウ、ツク ボウ	オコ ウ	トゥガイ ボウ		【両端のとがった天秤棒】 さし・さしのぼ ー・さす・やまいこ・やまおこ・やま おこ 以上、〔標準語引き方言辞典〕（佐 藤亮一） 【両端の尖った天秤棒 おうこ】 さし・さ す・とんざりおこ・やまおこ・やま おこ・らこ 以上、〔標準語引分類方言 辞典〕（東條操編）	
 なえかご 苗籠	田植えのときに、苗代から苗を運ぶための専用の籠。平たいものが多く、二つ一組で天秤棒で担ぐタイプのものが多い。	ナエカゴ			ナエカゴ	ナエカゴ	ナエテコ				
 パイスケ	港湾での荷役作業で、石炭などを運ぶために用いられた平たい籠。笹類で編まれている。近代になって普及したもので、バスケットが訛ってパイスケの呼称になったと考えられる。				パイスケ	パイスケ				【土木工事で石を運ぶ竹製の籠】 でんすけ 以上、〔標準語引き方言辞典〕（佐藤亮 一）	
 てさげかご 手提籠	提げ手のついた小さい籠。リングやミカンなどの果実の採取用などに微妙に大きさや形の異なるものがある。ここでは吊り手のある籠の総称としておく。		フコ、テコ			テカゴ	サゲテコ ティール テサゲテン グー ゴ			【手提籠】 くもんかご・ちゃんかご・ち やんちやこ・ぼて・ぼてー 以上、〔標準 語引き方言辞典〕（佐藤亮一） 【提籠】 くもんかご・しよーけ・ちゃんか ご 以上、〔標準語引分類方言辞典〕（東 條操編）	
 こしかご 腰籠	腰につけ小物を入れて運ぶ小形の籠。	コシコ、コ シカゴ、ハ ケゴ、カ ケゴ			ピク	ツケカゴ コシツケ ヨシゴ、タ カカゴ	コシテゴ	ティール		【腰に下げる袋】 こしす・こいす・さで こ・どーらん・ぼだす・やまでこ 【籠 で編んだ腰につける袋】 こしーこ・こし かご・こしご・こしごこ・てご・てんご ぼーらいこ 以上、〔標準語引き方言辞 典〕（佐藤亮一） 【腰につける籠】 あじか・かけご・こし ご・はけご・こしつけ・なたぶくろ・ひ ご 以上、〔標準語引分類方言辞典〕（東 條操編）	
 もっこ 畚	藁や竹などで平たく編まれた網に荷を載せて運ぶ用具。堆肥などを入れて天秤棒で担いだり、2本の棒の間にとりつけて、二人で運んだり、袋状に編まれたものを牛の背に渡した棒の両側に付けたりして用いた。牛の背につけるタイプは、アイコンのものと形態は異なるので、もう一項目増やすべきかもしれない。	モッコ			モッコ、ニ ナイモッコ	モッコ	フコ、モツ コ、タケモ ツコー ツコー	オーダー コー		【畚】 あうだ・あふだ・いかぎめが・いく り・いじこ・いじつこ・いちこ・いちっ こ・いもふり・えぐり・えびれ・えび えんび・えんび・えんび・えんび・えん ぼ・えんぼり・おーだ・おーだー・おん だ・かかえもつこ・かっご・かもろ・か りこ・かるこ・きりたらう・こいどり こいどる・こいどれ・こえどり・こえほ く・こえほろ・こえもふごこ・こもた が・さらくち・さんどろ・じんきち・す ーかつぶ・すこ・すらくち・せらくち たがら・たなきもんこ・ちやてび・つく ら・つんくらめ・つんだめ・てご・てご っぼ・てごっへあ・てごぼ・てふご・て ぼ・てんこ・てんびん・てんびん・てん もこ・とつこ・なかつ・ひじこ・ふくつ ふご・ふごどり・ふり・ふんない・ほご ろ・ほぼら・ほぼろ・ぼんた・ゆぐり いんぐり・ゆんぐり 以上、〔標準語引 き方言辞典〕（佐藤亮一） 【畚】 あうだ・いくり・いしへこ・いもふ り・いんぐり・えんぐり・えんぼ・おー だ・かがり・かりこ・かるこ・こいどり こえほろ・てご・てんびん・とつこ・ひ かご・ふくつ・ふくへさる・ほつち・ほぼ ろ・やまおだ・えぐり・つんくらめ とんびよーし・ふんない 以上、〔標準語 引分類方言辞典〕（東條操編）	
 つと 苞	藁などの草類をまとめて、飯や納豆などの食品などを包み、縄で縛って背負って運んだり、吊り下げて保存したりするもの。ワラツトなどという。							ワラツト			

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 巾着袋	日常の小物を収納して持ち運べる布袋で、口を紐で縛れるように作られている。						キンチャク、コンソク、オプク、マイブク、ロ、シダク、シブク				
 風呂敷	衣類など物品を包むための正方形の布。本来は風呂場の床に敷き、着替えを包んだためにこの名があるという。めでたい図柄などを染め抜いたものがある。	フロシキ			フルシキ		フロシキ	フロシツ		【風呂敷】いたん・うちゅくい・かけの・かるしき・つづみ・てーたん・てぼる・てゆーたん・ばんかけ・ひらいた・ひらいたん・ゆーたん・ゆたん	
 手桶	水や酒などの液体を汲んで運ぶための取っ手がついた桶。手提げ桶、ミズオケなどとも呼ぶ。	テオケ						テオケ		【手桶】いない・かぞげ・からげ・きつだめ・こじょけ・ごんぶり・さげ・たごたんこ・ちよーで・つしけ・てごおけ・てずり・てたご・てだる・にない 以上、【標準語引分類方言辞典】(東條操編)	
 樽	主に酒・醤油などの液体類を運び、保存しておくための容器で、細長い薄板(くれ材)を円筒形に組み立て、蓋となる円盤(鏡板)をはめて、竹などのタガで固定してある。中の液体を出すためには、栓を抜くか蓋を叩き壊す必要がある。	タル			タル			ショイダイ			
 炭俵	木炭の搬出に用いられる。カヤを編んで細長い袋状にまとめ、木炭を詰めて円筒形または四角形にまとめて、口は細かい枝木で蓋をして縄で縛って塞ぐ。	スマダワラ					スマダワラ	ダツ			
 縄	薬などの繊維を細長く撚り合わせたもの。運搬作業では荷をまとめたり、身体に固定したり、吊り下げてバランスを取ったりするときに用いる。特に、背負い運搬用に肩に当たる部分を平らに編んだ背負い縄など用途に特化した縄がいろいろある。	ニナワ			ナワ	ナワ	ナワ	ノー	ナー、チナ	【縄】おねー・ついなー・はなわ・ひも以上、【標準語引き方言辞典】(佐藤亮一) 【荷縄】おこのこ・かすな・かちんなわ・かんべー・さんびやく・もとち・いなわ 【縄】がらなわ【二本の縄をよった太い縄】はよー【二本結りの縄】みとちみんな・みつくり以上、【標準語引分類方言辞典】(東條操編)	
 綱	薬等の繊維を細長く、また太く撚り合わせたもの。縄より太いもの。運搬作業では荷車や機などと牛馬を結びつけて曳く作業に用いる。				ツナ		ヒキテツ、ツナ、ナ、レンジ、ヤク			【綱】ついなー・もどつ 以上、【標準語引き方言辞典】(佐藤亮一) 【綱】もとち・もどつ 以上、【標準語引分類方言辞典】(東條操編)	
 環	先の尖った極く短い鉄棒に鉄の輪を取りつけたもの。伐採した材木の搬出などでは、切断面に打ち込み、丸い輪の部分にロープを縛って引き出すために用いられる。							カン			
 橇	雪や氷、あるいは材木を敷いた橇道を滑らせて荷を運ぶ道具の総称。荷を積み上げて、カスガイなどで固定する。雪上で使った雪橇・ソリ道を滑らせて下ろすキンマ(木馬)・馬に引かせる馬橇などがある。	ソリ	キフキノリ、バチ、コエフキノリ			ソリ、イツ、ボンソリ	ソリ、シュ、ラ	ソリ、シノ	X	【橇】ずーる・すり・ずり・てだれ【山から薪を運搬する橇】きつかけぞり【重い木や石を運ぶため雪上を滑らせる大きな橇】しゅら【材木を運搬する橇】たまびき【人力で動かす橇】どーぞりぞり【材木などを運搬するための地上を滑らせる橇】どぞり・どぞり 以上、【標準語引き方言辞典】(佐藤亮一)	
 木馬	木橇の一種。材木の搬出などに用いる。橇道にはパンギなどと呼ぶ丸太を地面に埋めてその上を滑らせ、沢を越えるときには丸太の橋を造って、その上に橇道を作る。基本的には傾斜を利用しているが、橇道きは人力で梶棒を持って操作する。傾斜の急なところは制御のための棒を用いたり、後に所要所にワイヤーを取りつけ、これを梶棒に巻きつけてスピードを制御した。	キンマ			キンマ		キンマ	キンマ		【山から材木を運搬する橇】きうま・きじんま・きゆーま・きんま・どびき 以上、【標準語引き方言辞典】(佐藤亮一)	
 雪橇	材木などを山から搬出するためには、冬季の雪上での運搬が有利だったので、雪橇が発達していた。橇が2本のものと、1本のものである。	ソリ、カクソリ、バチソリ									
 馬橇	雪上で荷を乗せ、馬に引かせる運搬具。比較的大型になり、人も乗って操作する。	バソリ					X				
 手鉤	大型の魚や俵や吠(かます)などを運ぶときに、鉤を品物に突き挿し、引っ掛けて手元に寄せたり、移動させたりするのに用いる短い手がついた鉤(かぎ)。テトビなどともいう。直接手で持ちにくいもの、重くて形が定まらないものが対象になることが多い。		カギ	テカギ	テカギ	テカギ	テカギ	テカギ			
 丸木舟	丸太を削り抜いて造られた舟。板造りの構造より丈夫であるために、岩礁海岸の磯漁に近代になっても長く用いられていた。山間部の川や湖沼でも用いられた。	ブチブネ	マルキブネ				X	マルキブ、サバニ、ネ、サバニ、スブネ		【丸木舟・独木舟】うば・きらー・さばに・すぶに・すんね・ともど・むたま 以上、【標準語引分類方言辞典】(東條操編)	
 筏	山中から搬出する材木を平らに並べ、一定の幅と長さにとり、筏乗りが人力で操縦して川を下る搬出方法のひとつであるが、それ自体が一種の乗り物になっている。材木に穴を空け、門(かんぬき)を通したり、手すりをつけたり、専用の舵(かじ)をつけて操縦できるようにすることがある。	イカダ					イカダ	イカダ	X		
 碇	水中に投入し水底に引っ掛けて、水面や水中に浮く船や筏、あるいは漁網などを固定させる大型のカギ状の道具。船や筏などの規模により重さ・大きさ・素材が選ばれる。鉄など金属製の場合は「錨」、木製で石の重りがつくものは「碇」の漢字を使い分けることが多い。水底で土砂にカギが安定して喰い込むように鉤に交差する棒状の部材(撞木などと呼ぶ)が付く場合が多い。なお、「すばる」として類型化できる小型の碇状の民具があり、別項でとりあげている。				イカラ		イカリ	ヤマタロウ	イカイ	【錨】いから・かいて・かいで・かぎ・かたつめ・かなご・きつと・すばる・すばる・すばら・すまり・すまる・つぶら・つぶら・びよー・まけ・やまたる 以上、【標準語引き方言辞典】(佐藤亮一) 【錨】かぎ【石で作った舟の重り】つぶら【木に石をしぼりつけた錨】きつと・さまつか・まけ 以上、【標準語引分類方言辞典】(東條操編)	

運搬

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 よつめいかり 四爪錨	鉄製の錨（いかり）の一種で、つめ（鉤の部分）が四方に出るもの。日本の伝統的な運搬船である舟船などで多用された。水底に沈めるときに安定するよう、軸に交差する方向に木製の榑木（しゅもく）を付ける。錨綱・錨蟬（錨用の滑車）など関連具がある。二方向にだけ出るものを「二つ爪錨」と呼び分けることもある。				イカウ、ヨツメ		ヨツメイカリ				
 ろ 槽	和船を漕ぐための推進具。櫓とも書く。主要な2材（櫓下と櫓腕）から構成される。水中に入って水を切り、推進役を果たす櫓下は、平たい棒状で、断面が平たい菱形に近い形で、両端が尖って水を切り、8の字に回しながら漕ぐことで、プロペラと同様の推進力を生じる。もう一材の櫓腕は、櫓下と「へ」の字に曲げた角度で、タグなどと称する麻紐（のちに鉄線など）で結合される。結合点近くに、入れ子と呼ばれる部材を取り付け、その凹部を、船梁の先に付けた櫓脚に嵌めて、ここを支点として漕ぐ。櫓腕には先端近くに櫓づくという短い棒を指して、漕ぐときの握り手とし、櫓を傾けるときに力を入れるとともに、この棒に綱（早緒）を付けて船体とつなぐ。				ロ		ロ、ロウ	ロ			【櫓】 あきろ・あいろ・あばろ・うちろ・おーども・おもて・かい・かいろ・かけろ・ころ・しんぐ・すざく・ともど・とも・ともろ・はつきき・はどろ・ふるろ・まえどーろ・まえろ・りゅう・わきろ以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一）
 かい 櫓	古来から用いられてきた船の推進具の一つで、棒状で先端が平らに削られ、手元にT字型に短い握り手が付く。船縁に綱の輪をとりつけ、その輪に櫓を差して、櫓を8の字に練ることで推進力が得られる。櫓はこの櫓から変化したものと考えられている。ただし、大型の船でも、櫓は複数併用され、磯漁などで小周りの効く操作には櫓が用いられてきた。ちなみに、ボートの推進具としてオールが知られている。先端が筒状の棒の途中を支点にして、漕ぎ手が後ろ向きに漕ぐ方式である。前者は櫓（英語ではpaddle）、後者はオール（oar）と呼び分けておこう。日本では櫓は縄文時代の丸木舟にも付随して出土している。	カイ			キヤ、カ、カイ		カイザオ	カイ、ヨホ	ウエーク		【櫓】 うえーく・おやこ・さつけ・へらかい・やく・やふ 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）
 かじ 舵	櫓とも書く。船尾の楫床に差し込み船の進行方向を操作する。船を浅瀬に泊めたり浜へ曳き上げたり、漁をしたりする際には取り外せる。				カジ		カジ	カジ			
 ともづな 罎綱	船を岸につなぎ止める綱。		フナツナ								【船をつなぐ大綱・ともづな】 かがそ・かすな・こーど・すくり・はずな 【舟のいかり綱やとも綱など】 かがす・かがそ・かすな・こーど・すくり・はずな 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）
 ふなじしゃく 船磁石	航路や方位を知るため、大形和船に取りつけていた計器。現在の羅針盤に相当するもの。										
 ふなだんす 船箆筒	千石船など大形の廻船に積み込み、船旅に必要な帳面・衣装などを入れて運んだ小形の箆筒。衝撃にも耐えられるよう頑丈につくられている。						フナバコ、タン	フナダンス			
 ねこぐるま 猫車	人力で荷を運ぶための一輪車の仲間。車輪が中央に一つだけあり、後部の二つの取っ手を人が持ち上げて、押すようにして運ぶ。一輪のため狭い道でも自在に運べる利点がある。ネコとも。							ネコグイ、マ、ハコグイ			
 にぐるま 荷車	重量物を載せて運ぶ車。一般には人力で引く車を指し、馬に引かせるのを馬車、牛に引かせるのを牛車という。	ニグルマ			ニグルマ		ニグルマ	ダシゴロ、バシヤ、バゴロタグイ、サマ		【荷車】 おこのぼ・しゃりき・てくいま・てくるま・どたぐるま・どんぐるま・にはしゃ・バガ・ものぐさぐるま・よつくるま・よつで 以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一）	
 だいはちぐるま 大八車	荷車的一种で、人力で引くもの。二輪車が主で、馬力など畜力を用いるものには四輪の荷車もある。			テグルマ	ドタグルマ、ワ		ダイハチグルマ、トンボグルマ				